

2021年7月30日第75回運輸政策セミナー  
ワーケーション～働き方と地域活性化  
小瀬理事長補佐 閉会挨拶

○運輸総合研究所理事長補佐の小瀬です。それでは、お疲れのところ恐縮ですが、閉会に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

○まず、貴重なお話をしていただきました関西大学の松下先生、日本航空の東原様、南紀白浜エアポートの岡田様、プリンスホテルの赤松様、また、ご参加いただきました大勢の視聴者の皆様、そして当研究所の活動をご支援頂いている日本財団に御礼を申し上げます。

○本日のセミナーでは、これからのワークスタイルのあり方、ワーケーションに関する先駆的な取組や、その効果、課題など、講師の皆様のそれぞれの立場から、具体的にわかりやすくご講演いただきました。

また、パネルディスカッションでは、山内所長をコーディネーターとして、講演内容を掘り下げるとともに、現場の生の情報をご提示いただくなど、多岐にわたる事項について議論を進めていただきました。

視聴者の皆様におかれては、ワーケーションに対するご理解をさらに深めていただいたのではないかと考えています。

○ワーケーションは、コロナ前から取り組みが始まっていましたが、感染流行によりテレワークなどの新しい働き方が急速に広がる中で注目されるようになり、認知度が高まりました。

課題は、認知をいかに関係の取組みの実施拡大につなげるか、特に、本日のお話にもありましたが、企業の勤務制度としての導入、従業員の利用が重要であると理解しております。

○松下先生から、アフターコロナのワークプレイスの方向性として、WFHからWFXへの移行、3rd Placeがメインになるなどのご指摘がありました。

私どもの周りを見ていると、IT環境が急速に整備され、テレワークやオンライン業務が定着し、工夫しながら職場でなくても仕事ができる経験を重ねるこ

とで、3rd Placeでの勤務、さらに、ワーケーションを取り入れる素地は、かなり醸成されてきているように思います。

労務管理、遊びではとの偏見、不公平感といった課題についても、先駆的な取組の事例、生産性などの定量的な効果検証、人事マネジメント戦略などのお話を伺い、決して乗り越えられないハードルではないのではないか、そのような印象を受けました。

○お話があったように、まずは、トライアル、スモールステップといった取組の動きが広がっていくことを期待しています。

○いずれにしましても、講師の皆様から、多くのご示唆をいただきましたことに、改めて御礼申し上げます。

○私からは以上です。この後、事務局から今後の予定のお知らせがあります。本日は、最後までご視聴いただき、誠に有難うございました。